

単元名 4 人間のきずな ―表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 配当時間 3時間

単元の目標 (1) 何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えることができる。
相手や目的に応じて、敬語を適切に使って通信文を書くことができる
(2) 自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書くことができる。
(3) 積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとする。

標準的な展開例

11210204_001

【準備等】知多の友 清書用の便箋

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 メール、活字、手書きの手紙を比較し、その共通点と相違点を見つけ、手紙のよさを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校生活の中で親しい間柄以外で手紙を書く必要に迫られる場面を考え、書く意欲をもつ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★手紙や電子メールの特徴を考えよう。 ○職場体験学習の礼状として書かれたメール、活字、手書きの手紙を比較し、共通点と相違点を整理する。 ○共通点と相違点をグループで話し合う。 <p>2 伝えたい内容を明確にし、気持ちが効果的に伝わる構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★お礼状を書くための構成メモを作ろう。 ○職場体験学習で、感じたことを思い出す。 ○思い出したことをグループで話し合う。 ○思い出したことを整理して手紙で伝えたい相手や内容を明確にする。 ○構成メモを基に、礼状の下書きを書く。 ○次時に準備するものを知る。 <p>3 相手の立場や状況を考え、表現や言葉遣いを工夫しながら手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★前時に書いた下書きをグループで読み合い、推敲をしよう。 ○以下の点に気を付けて、推敲し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の印象 ・心に響いた表現 ・不適切な表現 ・手紙の形式 ・誤字・脱字 ・文法的な間違い 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知多の友」を参照するとよい。 ・中学校生活での様々な行事を思い起こさせ、公的な場面(職場体験学習や高校訪問、地域の方への招待状など)で、気持ちを相手に伝える場面を挙げさせる。 ・「目標」「学習の見通しをもとう」(p.114)または「知多の友」を示し、社会生活に必要な手紙を書くことと、これからの学習の見通しを確認する。 ・メール、活字、手書きの手紙を用意し、黙読させる。 学級の実態に応じて、比較する観点を提示するとよい。 【評】手紙の形式や相手に応じた言葉遣いを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「知多の友」を使い、下書きをさせる。 ・付箋を配り、1枚の付箋に1項目ずつ書かせることよい。 ・グループで話し合うことによって、新たに思い出したり、感じたりしたことを付箋に1枚1項目で書き足させる。 ・「知多の友」を用い、伝えたい内容が書いてある付箋とそうでない付箋を整理する。 ・「学習の窓」(p.114)を示し、付箋を利用して構成メモを作らせる。「知多の友」の上段に付箋を貼らせると、下書きを書くときにも役立つ。 ・「前文」「末文」は単なる形式ではなく、相手の状況に配慮した気遣いであることに触れたい。 ・手紙の書き方(p.115)を参考にさせる。 【評】構成メモを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「知多の友」に構成メモを基に、下書きを書く。 ・学級の実態に合わせて、下書きは次時に行ってもよい。 ・事前に清書をするための物品や情報を準備させておく。 ・便箋は、学校で一括して用意してもよい。 ・手紙は、自分の思いを伝えるだけでなく、相手への気遣いも必要であることに気付かせたい。 ・読み手に手紙を受け取る相手の立場で気付いたことを付箋に書かせ、下書きの該当箇所に貼らせる。

- ・敬語の使い方 など
- 下書きに貼られた付箋や他の生徒の手紙のよいところを参考にして、下書きを手直しする。
- 清書を書く。

【評】相手の立場や状況を考えた言葉遣いができているか推敲し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・清書用の便箋と封筒を用意する。
- ・教科書(p.115)上段を参考にし、「知多の友」に封筒の表書き、裏書きをさせる。

【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-（14）家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。

「知多の友」を使用する。